

令和元年6月14日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13007

研究課題名（和文）プロスポーツ振興による地方都市の定住人口の維持・増加

研究課題名（英文）Maintenance and increase of resident population of local cities by promotion of professional sports

研究代表者

間野 義之（Mano, Yoshiyuki）

早稲田大学・スポーツ科学大学院・教授

研究者番号：90350438

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、プロスポーツチームが地域住民の地域愛着度を高めるプロセスを明らかにすることを目的とした。調査対象はFC今治の本拠地である愛媛県今治市在住の住民とした。

計3回の縦断的調査に基づき、FC今治に対するチーム・アイデンティフィケーションの上昇群と非上昇群に区分し、地域愛着の変化を検証した結果、上昇群は非上昇群に比べて地域愛着度を有意に高めていることが明らかになった。またその関係構造において、「地域の社会的評価」が媒介変数として機能していることも明らかとなった。本研究を通じて、プロスポーツチームが地域住民の地域愛着度を高め、地方都市の定住人口の維持・拡大に寄与する可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プロスポーツ振興を志向する自治体が多く見られる現在、本研究は住民のチームIDの上昇を起点とした地域愛着の醸成、ならびに社会的便益の拡大や地域活性化、定住人口の拡大に至る道筋に関する学術的根拠の一端を示した点に意義を有する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the process by which a professional sports team enhances the place attachment. The survey target was residents of Imabari City, Ehime Prefecture, where FC Imabari is based.

Based on a total of three longitudinal surveys, we divided the group into a rising group and a non-rising group of team identification for FC Imabari and verified the time-series changes in place attachment. It became clear that the place attachment degree was significantly enhanced by the rising group compared to the non-raising group. In addition, it also became clear that “social assessment of the area” functions as an intermediary variable in the relation structure. Through this research, it is suggested that the professional sports team may increase the place attachment degree of local residents and contribute to the maintenance and expansion of the settlement population.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：チーム・アイデンティフィケーション 地域愛着

## 1. 研究開始当初の背景

スポーツを通じた地域活性化の推進は、スポーツが有する存在価値のひとつとしてスポーツ基本法にも謳われている。プロスポーツの振興を志向する自治体も多く見られ、地域への経済的効果、社会的効果、心理的効果の発揮が見込まれている。なかでもJリーグクラブなど地域を本拠地とするプロスポーツチームに対しては、心理的効果の範疇として「地域への愛着や誇りの醸成」への期待が高い。その背景には、住民の地域への愛着や誇りを高めることは、定住人口の拡大や協力活動への参加意向の上昇など地域の社会的課題の解決にも寄与するとして、自治体の政策・施策の主要な KPI のひとつに位置づけられている点が指摘できる。

ただし、プロスポーツチームと地域への愛着の関係について、学術的な検証は十分とはいえない。両者の関係について学術的な検証と考察を試みることは、プロスポーツ振興を通じた地域活性化を志向する自治体の政策・施策に新たな意義が付与されると考えられる。

## 2. 研究の目的

先行研究の整理・検討を行い、地域愛着には「地域の社会的環境に対する評価」(以下、社会的評価)が強く影響すること、チーム・アイデンティフィケーション(以下、チームID)と地域愛着の相関関係は示されていること、両者の因果関係、とりわけチームIDを独立変数、地域愛着を従属変数とする関係の実証が不十分であることが分かった。そこで本研究では、以下のリサーチ・クエスション(RQ)および仮説を設定し、その検証を目的とした。

- ・RQ: チームIDと地域愛着はどのような関係構造にあるのか。
- ・仮説1: 同一地域の住民間において、観戦意図が高いほど、観戦行動をしているほど地域愛着が高い。
- ・仮説2: 一定期間にチームIDを上昇させた住民は、上昇しない住民と比較して、地域愛着が上昇する。
- ・仮説3: チームIDの上昇は、社会的評価の上昇を伴い、地域愛着の上昇を導く。

## 3. 研究の方法

仮説1に対しては、愛媛県今治市を調査対象地に選定し、FC今治の公式戦観戦者と今治市の住民(非観戦者)を対象とする横断的調査により地域愛着の程度を比較した【研究1】。

仮説2に対しては、今治市の住民を対象に縦断的調査(I期~III期/9ヶ月間)を行い、「チームID上昇群」「非上昇群」間で地域愛着の変化を比較した(二元配置分散分析)【研究1】。

仮説3に対しては、予備調査として今治市の住民の物理的評価、社会的評価、地域愛着の関係を分析し(重回帰分析)、本調査として「地域社会との結びつき」の項目(人間関係の変化、地域活動の参加経験・意向)を測定し、「チームID上昇群」「非上昇群」間で比較した(二元配置分散分析)【研究3】。

## 4. 研究成果

### 【研究1】

観戦者は非観戦者よりも地域愛着が有意に高く(t検定)、非観戦者内においても観戦意図が高いほど地域愛着が有意に高かったことが明らかになった(一元配置分散分析)。観戦者内で観戦経験回数による地域愛着の有意差は認められなかった。以上の結果から、仮説1は支持された。

住民間でFC今治に対する認知度や関心度が顕在化してからの期間が短い点を鑑みると、地域愛着が元々高い住民がチームIDの高さを示して観戦行動を示したことで、観戦者の地域愛着が高い結果が導出されたと考えられた。チームIDが時系列で上昇した際の地域愛着の変化の検証が課題とされた。

### 【研究2】

チームIDと期間推移の交互作用効果で有意差が認められ、「チームID上昇群」の地域愛着が上昇していた。チームID、期間推移それぞれの主効果は有意差が認められなかった。

これらの結果から、チームIDの上昇は地域愛着の上昇を導くことが示唆され、仮説2が支持された。ただし、チームIDの上昇が地域愛着の上昇を直接的に導いたとは断定できず、何らかの媒介変数の存在とその影響の検証が課題とされた。

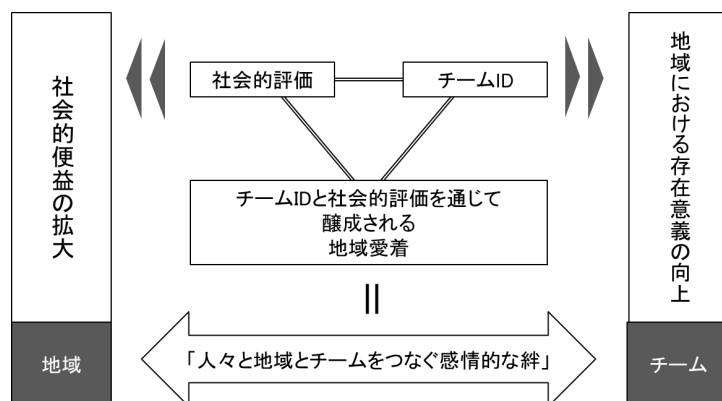
### 【研究3】

予備調査の結果、物理的評価と社会的評価は地域愛着の正の影響力を及ぼし、社会的評価の影響力がより高いことが明らかとなった。次に本調査の結果、チームIDと期間推移の交互作用

効果で有意差が認められ、「チーム ID 上昇群」の「地域社会との結びつき」が有意に上昇していた。チーム ID、期間推移それぞれの主効果は有意差が認められなかった。また、社会的評価は「チーム ID 上昇群」が有意に高いことが明らかになった。

チーム ID の上昇は社会的評価の上昇を導き、その社会的評価の高さが地域愛着に正の影響を及ぼしていることから、仮説 3 が支持された。

研究 1・2・3 から、チーム ID、社会的評価、地域愛着は上方へのスパイラルを伴う循環的な構造にあることが示された。この 3 つの変数が期間推移とともに上昇することで、外部への効果の発揮が期待される。チーム ID の上昇は、観戦者やファンの拡大をもたらし、地域におけるチームの存在意義の向上に結びつくと期待される。社会的評価の上昇は、地域の人間関係の豊かさの向上や地域活動への参加意向の増加により地域コミュニティの活性化をはじめとする社会的便益が拡大していることを示している。その際、チーム ID と社会的評価を通じて醸成される地域愛着は、「人々と地域とチームをつなぐ絆」として作用していると考えられる（図 1）。



(図 1) チーム、地域、地域愛着の関係

住民がチーム ID を上昇させることは、地域の社会的便益の拡大に資するものであり、間接的にも地域に効果を及ぼすことは注目に値する。ただし、チーム ID の上昇は一過性ではなく、期間の推移を伴う継続性が必要とされる。

プロスポーツ振興を志向する自治体が多く見られる現在、本研究は住民のチーム ID の上昇を起点とした地域愛着の醸成、ならびに社会的便益の拡大や地域活性化、定住人口の維持・拡大に至る道筋に関する学術的根拠の一端を示した点に意義を有する。

## 5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

- 菅文彦、古川拓也、舟橋弘晃、間野義之、チーム・アイデンティフィケーションと地域愛着間の媒介変数に関する考察、スポーツ産業学研究、査読有、vol . 28、No . 4、2018、pp . 321-335  
DOI : [https://doi.org/10.5997/sposun.28.4\\_321](https://doi.org/10.5997/sposun.28.4_321)
- 菅文彦、古川拓也、舟橋弘晃、間野義之、チーム・アイデンティフィケーションと地域愛着の因果関係に関する考察 -FC 今治の本拠地(愛媛県今治市)の住民を対象として-、スポーツ産業学研究、査読有、vol . 28、No . 1、2018、pp . 1-11  
DOI : [https://doi.org/10.5997/sposun.28.1\\_1](https://doi.org/10.5997/sposun.28.1_1)
- 菅文彦、古川拓也、舟橋弘晃、間野義之、スポーツ観戦意図及び行動と地域愛着の関係分析: FC 今治を事例として、スポーツ産業学研究、査読有、vol . 27、No . 3、2017、pp . 223-232  
DOI : [https://doi.org/10.5997/sposun.27.3\\_223](https://doi.org/10.5997/sposun.27.3_223)

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：舟橋 弘晃

ローマ字氏名：Funahashi Hiroaki

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：スポーツ科学学術院

職名：講師

研究者番号（8桁）：10758551

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：菅 文彦

ローマ字氏名：Kan Fumihiko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。